

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2021 年 1 月 25 日 VOL.44 第 296 号 定価 550 円
 発行 / AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail: member@amda.or.jp
 郵便振替: 01250-2-40709 □座名: 特定非営利活動法人アムダ

2021 年
冬号



救える命があればどこまでも

2021 年 新春のごあいさつ

AMDA 理事長 菅波 茂



ののくことなく、4～5カ月程の忍耐と考へて、前向きな生活設計を考へてはどうでしょうか。

2024 年 5 月に新札交換が政府によって発表されています。考へすぎかもしれませんが、1946 年 2 月に実施された新札交換によって起きたことを想起せざるを得ません。既に、新型コロナウイルスの連続した感染拡大による経済の分断により、先進国では GDP は確実に 10～20%ほど減少しています。

加えて、2025 年から「IT-AI 革命」が始まると言われています。そのことにより現在の職種の半分ほどを AI がとって代わる可能性が高いと予測されています。2020 年から世界的に感染拡大した新型コロナウイルスが後に、時代の大きな変革をもたらす契機になるかもしれません。

「AMDA は救える命があればどこまでも」のスローガンのもとに活動を継続することには変わりませんが、時代が大きく転換していく気配を感じています。

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
<https://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<https://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<https://www.amdamedicalcenter.com/>
 AMDA 兵庫 <http://amda-hyogo.com/>

明けましておめでとうございます。
 新春のお喜びを申し上げます。

新型コロナの第 3 波で本年が始まりました。昨年 12 月 14 日から AMDA は北海道旭川市で新型コロナウイルスのクラスターが発生した北海道療育園に医療チームを派遣しました。旭川市の人たちにとって大変な時期だったと思います。

この新型コロナの第 3 波は 2 月頃に最盛期となり 4～5 月に向けて収束していくとの予測があります。第 2 波が発生した 2020 年とは比較にならないほど多くの感染者が北海道、東京や大阪を中心に発生しています。これは PCR 検査数が普及したことに比例しています。検査陽性者数が爆発的に増えたことにより、現実的には日常生活に様々な規制が加えられています。しかし、単に恐怖と不安にお

新型コロナウイルス対応・北海道旭川市内医療機関支援活動

11 月からの北海道旭川市内での新型コロナウイルス感染拡大を受け、AMDA は関係者を通し、旭川市保健所と連絡。その後、同市保健所長の要請を受け、同市内で感染者対応など逼迫した状態が続く医療機関の支援に入ることを決定しました。

事前 PCR 検査にて新型コロナウイルスの陰性を確認後、看護師 2 人、調整員 1 人は 12 月 14 日に旭川市入り。翌日 15 日朝、AMDA チームは旭川市保健所を訪ね、保健所内で開催されている保健医療調整本部の会議に参加。その後、保健所及び保健医療調整本部の調整により合計看護師 3 人、調整員 1 人が社会福祉法人北海道療育園にて看護支援に入り 1 月 4 日、無事帰路につきました。

(GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美)



AMDA インドネシア支部長、タンラ教授が 旭日中綬章 受章



令和2年秋の叙勲で、AMDA インドネシア支部長、アンディ・フスニ・タンラ教授が、日本・インドネシア間の学術交流の促進及び友好親善に寄与したとして旭日中綬章を受章しました。タンラ教授は、広島大学で麻酔科の博士号を取得。その後、故郷のインドネシア、スラウェシ島マカッサルに戻り、母校、ハッサヌディン大学で教鞭をとられ、現在は、同大学名誉教授。AMDA インドネシア支部長とし

て、数多くの緊急救援活動を統括しました。2004年には、人道支援活動、日本との親善・文化交流への功績が認められ、日本の外務大臣表彰も受けられています。

タンラ教授のコメント。「このような大変名誉な榮譽を受けるとは、夢にも思っていませんでした。これは私を長年にわたって友として、時には家族として支えてくれた菅波理事長はじめ日本の方々のお蔭だと思っています。私は、日本への深い感謝とともに、この長年にわたってともに築いてきた信頼関係が次世代へと繋がることを今、切に願っています。」 (AMDA 理事 難波 妙)

AMDA こども食堂支援プラットフォーム支援物資（お米）贈呈式

AMDA こども食堂支援プラットフォームが2017年12月に設立され、子どもたちの食の支援と社会参加を目指して活動し、設立以来毎年4回、お米の支援を継続しています。

12月17日きらめきプラザ（岡山市）でこども食堂団体に対するお米の贈呈式を開催しました。こども食堂4団体、お米備蓄協力先の十字屋グループを代表して衣笠伸典部長、AMDA 支援農場代表世話人らの出席の下、菅波茂 AMDA 理事長より目録にてお渡ししました。

またこの贈呈式では在大阪フィリピン総領事のご意向でお米のプレゼントも行いました。AMDA は毎年、海外支部のある国の駐日大使館、領事館へお米を贈呈しており、在大阪フィリピン総領事より、今回はこのお米をAMDA で有意義に活用してほしいとのお申し出がありました。それを受けAMDA はこども食堂へプレゼントとし

てお米をお渡ししました。

その後、各こども食堂よりそれぞれの現状報告をしていただき、「地域の中で人とのつながりがうすく、コロナ禍でますますその傾向が増えつつある」「こども食堂参加者が支援に慣れていない」「現在コロナ禍でお弁当の提供をしている」また「安心して子どもから高齢者、一人親の家庭等だれが来てもいいふれあいの場にしたい」「食料支援で社会とつながっている」などのお声をいただきました。今回はお米の贈呈を通して各こども食堂の現状や各団体の思いを伺うことができる良い機会になりました。贈呈式欠席の2団体にもAMDA 事務所内にてお米をお渡ししました。

(AMDA ボランティアセンター事務局長 竹谷和子)



AMDA 菅波理事長、AMSA Japan メンバーと ZOOM ミーティング

9月29日、AMSA Japan のメンバー約10名が菅波理事長とZOOMでミーティングを行いました。AMSA(アジア医学生連絡協議会)は1980年に菅波理事長らが設立した団体です。今回のミーティングでは菅波理事長が、22歳のころ、大学闘争の風が全国に吹き荒れた間、1年間休学して、各国紛争前の平和な時代のアジアを放浪する中で、それぞれの国の環境や医療事情を観てきた

経験が今のAMDAの災害支援に活かされていること等を紹介しました。その上で、これまで40年に渡って培ってきた自らの学びから得られた人道支援活動の物の見方や考え方を、様々な切り口でメンバーに語りかけました。次第に話に引き込まれたメンバーからは、後日、沢山の質問が寄せられました。

(AMDA 理事 難波 妙)

インターン 就実大学経営学部 道広 咲さん

「今まで知らなかった世界を見てみたい」この思いから、約2か月、AMDAでインターンシップをさせて頂きました。

熊本豪雨の活動報告書の作成やボランティアに向けたページの作成、自らの経験を綴ったブログの投稿など、沢山の業務をさせて頂いたのですが、今までの経験を活かしつつも、状況に応じて支援を受ける側に寄り添い、臨機応変に対応することの大切さや、色々な人が協力して活動を



を行う上で「パートナーシップ」がいかに重要であるか、外部の人に分かりやすくAMDAの活動、それに対する思いを伝えることの難しさなど、多くのことを知り、学びました。

この2か月で、今まで縁のなかったボランティアのことや、災害支援の実態に触れることで沢山の「知らなかった世界」に出会えましたし、今まで何事にも消極的だった自分の変化も感じる事ができました。このような機会を頂いたこと、心から感謝しています。短い間でしたが、素晴らしい経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

第4回 AMDA 中学高校生会と高知県黒潮町中学生高校生との交流会

2017年より毎年、AMDA 中学高校生会（以下、AMDA 中高生会）が高知県黒潮町を訪問、地元の中学生・高校生と実施してきた交流会。今年は新型コロナウイルス感染防止対策として、10月24日、オンラインで行いました。交流会に際し、松本敏郎黒潮町長より今までの経緯等をふまえて挨拶いただき、AMDA 中高生会からは、2019年に「復興グルメF-1大会」のボランティアバスで参加した宮城県南三陸町、気仙沼で見聞きし感じたこと、そして今年7月の熊本豪雨災害の支援活動に参加したAMDA 看護師からの報告を発表しました。一方、黒潮町内から参加した佐賀中学校、大方中学校、大方高校からは各校で取り組んでいる防災活動などを中心に発表しました。参加した各学校の皆さんの感想の一部をご紹介します。

（AMDA ボランティアセンター事務局長 竹谷 和子）



・高知県立大方高校

オンラインという形ではあったけれど、AMDA 中学高校生会の方が充実した内容の発表をしてくれました。被災地訪問の話や、防災活動についての話を聞いて、しっかり考えていることがとてもよく伝わり、感動しました。自分たちの問いに対して皆が意見を出してくれたことが嬉しかったです。一番意味があるのは交流したこと自体だと思うので、これからも一緒に考えていきたいと思っています。

・黒潮町立佐賀中学校

僕が一番印象に残っていることが、AMDAの皆さんが東日本大震災の被災地に実際に行ったときのことをまとめた発表でした。ぼくは被災地の映像しか見たことが

なく、詳しく解説されたものを実際に見たことがありませんでした。今回のAMDAの発表を聞いて、僕の中で、より悲惨な状況が増したように思えます。大方高校の発表では、防災に対する呼びかけだけでなく、災害が起こった後のことも考えた発表だったので、とても分かりやすかったです。大方中学校の保小中高と合同で避難訓練に取り組み、地域とも連携した防災活動をしている様々な工夫がありました。これからもいろいろな人との交流を大切にしていきたいと思っています。

・黒潮町立大方中学校

僕はオンライン会議に参加して、防災への素晴らしい心構えを学びました。先ず一つ目が他校の防災活動です。他校のみなさんは、コロナの影響の中で今できることを行っていて驚きました。二つ目はAMDAの活動です。一人でも多くの命を救おうという気持ちで助けられる人の気持ちを考えるところに関心しました。僕はこんな心構えをまねて、立派な防災活動ができればいいなと思いました。

・AMDA 中学高校生会

私にとって二回目の黒潮町との交流会はコロナの影響でオンラインでの開催となったが、昨年度に引き続きより進化したお互いの活動の様子などを共有することができ、お互いの活動をより深めるきっかけになったと考えます。とくにコロナだからこそ、今までとは違った状況にどう対応していったのかということに関してはとても参考になりました。特に防災に関する啓発の動画を作成し、地域の人に見てもらおうという企画については自分たちの活動の中にもぜひ取り入れたいと思いました。



インターン 四宮 愛子さん

AMDAを知ったきっかけは、徳島大学にあるA-TIMSというサークルに参加したことです。このサークルは国際医療や国際協力に興味がある医学部生が参加するグループです。そこでは、国際医療に携わる様々な人々の話を聞く機会があり、その一つがAMDAでした。現在学生という立場の私でも、何か国際協力や災害医療に携わることができないかと考え、夏休みの長期休暇を利用して、インターンシップに参加しました。携わった業務は、国際フェスタで



のAMDAの広報活動、防災関連のスライド作成やインド関係の記事を日本語へ翻訳（ウェブ用）することでした。短い期間でしたが、AMDAのインドでの支援や日本での災害支援、活動意義について知ることができました。また、スライドを作成することによって日本の防災について改めて勉強する機会となりました。自分の知識や考えを広げることができました。

自分のペースで無理なく参加させていただき、感謝しています。また、機会があれば共に活動したいと考えています。

AMDA インド支部長 セテュクマール カマト医師

AMDA を支えて下さっている方々の様々なエピソードをインタビュー形式でお届けします。

今回は、AMDA インド支部長 セテュクマール カマト医師です。（聞き手：AMDA 理事 難波 妙）

AMDA カマト先生をインドの盟友と呼ぶ菅波理事長との出会いについてお聞かせください。

カマト医師 1980年、菅波理事長が医学生二人と一緒にインドのグジャラート州・アーユルヴェーダ大学を訪問されました。当時大学院生だった私は、東洋の伝統医学とアーユルヴェーダに深い関心を寄せる菅波理事長と熱く語り合いました。そして、同年、タイ、バンコクで開催された第1回アジア医学生国際会議（AMSA：アジア医学生連絡協議会）に菅波理事長から招待され、アーユルヴェーダ医学の重要性について発表したところ、参加者全員から好評を博し、私と菅波理事長との友情はさらに強くなりました。そして、1984年、私たちは、医師となり、菅波理事長に人道支援活動に積極的に関与する組織結成を求められ、8月インドのマニパールで開かれた第1回アジア医師国際会議においてAMDAの発足を宣言しました。



First International Meeting of Asian Medical Students (1980, Thailand)

その後も私は、AMDAとともにアジアの医師との交流を広めるため、インドでの国際会議や災害被災国での多くの人道支援活動を行ってきました。

菅波理事長に出逢って40年。この友情は今や大切な盟友として私自身の幸せにも強く深く繋がっています。

AMDA カマト先生がアーユルヴェーダ医学を専門とされたきっかけを教えてください。

カマト医師 アーユルヴェーダは、宇宙の根本原理を追求したインドの伝統的医学です。私の家族は、このアーユルヴェーダ医学を100年以上前から継承しています。私は7人兄弟の一番末っ子で、姉も兄も皆、アーユルヴェーダ医学とは別の道に進みました。私の父は、家族が長年にわたって継承してきたアーユルヴェーダ医学が、



ここで途絶えることを危惧し、私にそれを継ぐよう提案しました。その時、私に他の選択肢はありませんでした。そして、私は、アーユルヴェーダ医学の小児科の専門教育を受け、インド、ケララ州にあるマニパール大学でアーユルヴェーダ医学の教授として、33年間、研究者、臨床医として学術分野で貢献し、2014年に退職しました。

AMDA 岡山でアーユルヴェーダ医学のセミナーもしていただきましたね。

カマト医師 私は日本を19回ほど訪問しています。最初に訪問したのは、1985年アジア伝統医学に関する林原フォーラムです。2年連続で参加しました。菅波理事長の病院や老人保健施設の訪問は今でも鮮明に覚えています。2008年には岡山大学医学部からも招聘され、アーユルヴェーダ医学での関節リウマチの臨床研究やセミナーなどを開催しました。岡山滞在中は関係者の皆様にとっても親切にいただきました。故郷ウドゥピーにくらべると、岡山はとても静かで、交通渋滞もなく、私自身の心身ともに整った状態で日々過ごすことができました。



AMDA これからのAMDAインドの将来のビジョンについてお聞かせください。

カマト医師 AMDAインドは一番古いAMDAの支部で、今も支部の中核として活動を続けています。自然災害の被災者支援のための多国籍医師団への参加のみならず、様々な教育、研究分野まで幅広い活動を展開しています。AMDAインドは、昨年6月3日に正式にインド政府に登録されました。ニューデリーやブッダガヤでのこれまでの活動に加え、貧困者やお年寄りの支援、アーユルヴェーダの教育、実践、研究が今後検討される予定です。これからはAMDAインドは更なるネットワークの拡大を目指して世界の平和に貢献してまいります。

コロナ禍における AMDA ピースクリニック緊急食糧支援活動

世界的に新型コロナウイルス感染症が蔓延しており、AMDA が母子保健事業をおこなっているインドは世界 2 位の感染者数となっています（2020 年 11 月末時点）。同国最貧州の 1 つであるビハール州ブッダガヤにある AMDA ピースクリニックは、コロナ禍においても事業 * を継続しています（都市封鎖時期を除く）。第 1 回目の都市封鎖後 6 月に行った現地調査で、妊産婦世帯が経済的影響のため日々の食材を満足に手に入れない状況が判り、緊急食糧支援として毎週 1 回、食糧と調味料を約 60 世帯に提供しています。本当に厳しい時期は、「1 日 3 回食事ができない日がある。食べられていた頃が夢のようだ。」と話す妊産婦もいました。6 月に緊急食糧支援を始めてから半年、現地スタッフのアニータ氏は「最近では毎週火曜日の食糧支援助物資配布の時間になると、事前に呼び掛けなくても人が集まるようになっている。」と



話しました。

* 密を避けるため、健康教育、栄養プログラムは休止中。
(インド担当 岩尾 智子)

AMDA フィリピン台風 19 号 20 号 緊急支援活動

11 月 1 日に台風 19 号、11 日夜に台風 22 号が相次いで上陸したフィリピンで、AMDA は緊急支援活動を行いました。コロナ禍のため日本からの人員派遣は行いませんでしたが、フィリピン支部や現地協力団体と密に連絡を取り合いながら活動を進めました。各台風 に対する緊急支援活動およびオンライン報告会開催を以下の通りご報告いたします。

①フィリピン台風 19 号緊急支援活動

11 月 1 日、台風 19 号はフィリピン東部のカタンドゥアネス島に上陸し、甚大な被害をもたらしました。台風通過後、数日は電話やインターネットも繋がらず、島民は近所の頑丈な家に避難し身の安全を確保しました。



このような中、フィリピン支部から支援要請があり、AMDA は支援活動にむけた調整を開始し、AMSA（アジア医学生連絡協議会）ジョネルタ支部、カタンドゥアネス州立大学とも協力して活動しました。

支援場所は自治体と協議の上決定。被災地の需要に合わせて、米、麺類、魚缶、石鹼などを購入し、準備をしました。11 月 8 日、AMSA ジョネルタ支部を中心に同島州都ビラクのバリテ地区で 263 世帯に物資支援を行いました。続いて、カタンドゥアネス州立大学を中心に、11 月 15 日から 27 日にかけて、ビラク町で 3 か所、サンミゲル町で 1 か所の計 3 回、合計 501 世帯に物資を配布しました。

②フィリピン台風 22 号緊急支援活動

11 月 11 日夜、ルソン島北部に上陸した台風 22 号に

よりカガヤン州、イザベラ州などで大雨や洪水被害が相次ぎました。フィリピン支部、WINDS（フィリピン開発安全女性委員会）からの要請で AMDA は被害の大きかった両州で支援活動を行うことを決定。同支部、医学生団体 LCAT（ルソン緊急支援チーム）と被災地団体を中心に、両州において計 566 世帯に物資を届けました。また、WINDS と AMHOP（フィリピン市町村保健官協会）を中心とした活動では、両州で医療支援活動も行い計 365 人を診察し、計 767 世帯に物資支援も行いました。



③フィリピン緊急支援活動オンライン報告会

11 月 12 日、オンライン報告会を行い、約 40 人にご参加いただきました。フィリピン支部長からの挨拶と



現地協力者 4 人による活動発表の合間に質疑応答の時間を設けました。参加者から「被災状況はどうやって確認したか？物資の輸送方法は？どうやって被災地のニーズを確認したか？」など質問があり、協力者から「被災状況は自治体からの情報に頼った。物資は現地で購入し大学の車両を使用した。ニーズも自治体の調査結果を参考にした。」など回答がありました。

(フィリピン担当 岩尾 智子)

宮城・南三陸町長より AMDA に感謝状をいただきました

10月26日、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町の佐藤仁町長が岡山市のAMDA本部事務所を訪問されました。災害直後に南三陸町で支援活動を実施したAMDAに感謝状をいただきました。佐藤町長のAMDA訪問は2014年に続き、2回目となります。

贈呈に際し、佐藤町長は、「2011年3月11日、奈落の底に落とされたとき、手を差し伸べてくれた恩義を、生涯忘れることはありません。助けてもらった記憶をもとに、ほかの地域が被災した際には必ずその恩義を返すことを、町民と、町を担っていく次世代に伝えたい。」と述べられました。佐藤町長は、これまで140か所を訪問し、被災経験を活かした災害支援ができる町として、災害協定のある自治体との更なる関係強化を目指していらっしゃいました。



AMDAは南三陸町の更なる発展を願っております。
(AMDA理事 難波 妙)

日本技研工業株式会社様（東京都）よりごみ袋のご寄付をいただきました

コロナ禍で医療機関では、マスクやペーパータオル、ガウンの需要が高まると同時にこれらの廃棄量も大幅に増えています。このような状況を鑑み、日本技研工業株式会社様より、ごみ袋の寄贈のご提案をいただきました。コロナ感染症対策の一環として、AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム関係医療機関ならびに自治体にAMDAから希望を募ったところ、11か所から1128ケースの要望があり、このうち687ケースが年内までに届けられました。ゴミ袋を受け取った関係機関より、「衛生管理に必要な備品ですので大変有難く、大切に使用します。」「給食部門や薬剤部門などその他の多くの場面で仕様でき、大変助かります。」等、感謝のメッセージが寄せられました。引き続き日本技研工業株式会社様には残りの441ケースと追加希望についてもご協力いただくことになっております。(AMDA理事 難波 妙)



寄贈を受けた医療法人芳越会 林秀樹理事長

株式会社トマト銀行「AMDA国際医療貢献定期預金」の寄付金贈呈式

今年で6回目となる株式会社トマト銀行の※「AMDA国際医療貢献定期預金」による寄付金贈呈式が執り行われました。

株式会社トマト銀行 常務取締役 中山雅司様から贈呈のお言葉をいただいた後、AMDA 菅波理事長に目録が手渡されました。中山様からAMDAに「災害に対して、いつもスピーディーに対応されており、命を救うために一刻も早く駆けつける姿に敬意を表します。トマト銀行の創業の原点である相互扶助の精神でお客様が困ったときこそしっかりと応援させていただくことを使命としており、AMDAさんの相互扶助の精神と同じくしていることに共感しております。今回のAMDA国際医療貢献定期預金の取り組みは、地元の皆さまの支持を受けて目標を達成することができました。AMDAの支援活動に役立てていただきたいです。」



菅波理事長から「トマト銀行様の創業の原点とAMDAの理念が同じ「相互扶助」であり同じ思いであることを知りました。この度も多大なご支援をいただき改めて感謝申し上げます。」

と御礼を述べました。

※「AMDA国際医療貢献定期預金」とは、トマト銀行に新規にこの定期預金を30万円以上お預け入れされた方に店頭表示金利+年0.01%上

乗せ(税引き後 年0.0079%)するもの。そして、新規預け入れ総額の0.1%(上限30万円)をAMDAにご寄付くださるという取り組みです。尚、このキャンペーンは2020年11月1日~11月30日までの期間をもって終了いたしました。

ご協力くださったお客様、ご支援くださった株式会社トマト銀行様、に心から厚くお礼申し上げます。

(AMDA理事 難波 比加理)

ホンジュラス・ハリケーン被災者緊急支援活動

11 月に入り、巨大ハリケーン「エタ (Eta)」が中米諸国を襲い、AMDA グループである特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 (AMDA-MINDS) が活動を行っているホンジュラスにも上陸。約 164 万人が被災しました (11 月 6 日現在)。この甚大な被災状況を受け、11 月 17 日、駐日ホンジュラス共和国特命全権大使アレハンドロ・パルマ・セルナ閣下が AMDA-MINDS 事務所にご来訪・支援要請があり、今回 AMDA・AMDA-MINDS の合同支援活動の実施を決定しました。

その後、ハリケーン「イオタ (Iota)」もホンジュラスを通過し、被害も拡大。緊急支援として、首都テグシガルパ市の避難所等 3 カ所で合計 66 人に衛生用品、清掃用具、解熱剤、下痢止め薬などを配布。更に、AMDA-MINDS の活動地域でもあるエル・パライソ (El Paraiso) 県 テウパセンティ (Teupasenti) 市にて、同市緊急対策委員会の協力のもと、食料や毛布、衛生用品などを 50 世帯に配布したほか、乳幼児がいる 25 世帯におむつ等の



支援を行いました。

しかしながら、生活の立て直しに向けたニーズに対応すべく、今後は復興支援として AMDA・AMDA-MINDS 合同支援活動を行っていく予定です。

尚、12 月 3 日現在、2 つのハリケーンにより、死者数 99 人、延べ約 466 万人以上が被災しています (ホンジュラス緊急事態対処常設委員会 (COPECO) 発表)。

(GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美)

東日本特集

炊き出し、衛生改善事業報告

仙台夜まわりグループ
理事長 今井 誠二

今回、AMDA の皆様を通して支援していただいた物資は、炊き出し、衛生改善事業で配らせていただきましたので、その時の様子を報告させていただきます。

いつも仙台の寒い冬を路上で過ごしている人たちのことを憶えていただき、有り難うございます。仙台夜まわりグループでは、毎年、年末年始を挟んで 11 月～2 月まで越冬支援活動で、寒さが身にしみる仙台の冬を乗り切ってもらおうと、炊き出しや食事会、夜まわりなどで、カイロや全国の皆さんが提供してくださった防寒具などを配っています。今年はこちらより越冬支援に入る時期に皆さんがお米や肌着を送って下さったおかげで、タイミング良く渡すことができました。

新型コロナウイルス感染防止のために、ヴォランティア参加は現在休止中ですが、炊き出しではスタッフが手際よく容器にご飯とカレーをよそって、参加の皆さんにも間隔をあけて列を作ってもらい、普段のような手渡しではなく、並べたものを取りに来て貰う仕方で配食をしています。

提供された新しい肌着は、月曜朝に行われているシャワー提供時に配布しました。当事者は温かいシャワーを浴びてから新しい肌着に着替え、抱えてきた洗濯物を洗って乾燥させ、待ち時間には温かいご飯を食べて、またそれぞれの居場所へと帰っていきました。

その日一日を生きるのに精一杯である路上生活者にとっては、年末年始ありません。仙台夜まわりグループでは、公共施設が閉鎖され、居場所がなくなってしまう年末年始は、毎朝おにぎりと味噌汁を配り、声をかけて応援しています。今後とも路上生活者支援のためのご理解とご協力をお願い申し上げます。

東日本大震災から 10 年、そして今

宮城県気仙沼市・南町紫神社前商店街
事務局長 坂本 正人



東日本大震災から 10 年が経ちます。当初国は復興期間を 10 年と示しましたが、津波で流された町も、防潮堤工事が終わらず未だ続いています。土地を返された住民が何軒かは家や店を建てましたが、5 年前、戻って再建されると言われていた多くは駐車場に変わり、商店街の周りは空き駐車場だらけです。公営住宅も建ちましたが、なかなか以前のようなコミュニティを保たれてはいません。

商店街においては、3 年目が過ぎ、病気などで店を閉めた方が 3 軒もあり、これも大変な問題です。仮設商店街の時には非常に低い家賃でしたが、今は 10 倍以上の金額の建設費を各店が支払っています。これが 10 何年間続くわけです。店を閉められると、残った店主さんたちへの負担となり、これは復興スキームの問題点だと思っています。

日本全体を見ても、毎年のように各地で災害に見舞われ、地球規模で悲鳴を上げている気がします。また、昨年から続くコロナで気力体力を失われた 1 年でした。しかし、こんなことでは「めげられぬっちゃん (気仙沼弁)」を信念に、地域コミュニティの再建と、商店街の賑わい作りに取り組みます。

10 年以上もの長い間支援をして頂いている AMDA さんには本当に感謝しています。

10 年以上もの長い間支援をして頂いている AMDA さんには本当に感謝しています。